



碧南市の人口は 今年8月末現在で 7万3千人超に回復

市の人口は、1948（昭和23）年、大浜町、新川町、棚尾町、旭村が合併して市制がスタートしたときに4万1千803人、1955年に明治村大字西端が合併したときに4万7千890人、その後人口は増え続けて1973年に6万人を超え、2005年には、7万2千人を超え、リーマンショック直前の2008（平成20）年7月末に7万4千265人（日本人7万25人、外国人4千240人）となり、過去最高を記録します。

その後、人口は、碧南市制上初めての減少を経験し、2015（平成27）年5月末の7万1千630人（日本人6万8千568人、外国人3千62人）まで、約2千600人減少しました。これ以降人口は、景気回復のなか、増え続け

ており、今年8月末現在で7万3千58人（日本人6万8千382人、外国人4千676人）と回復しました。なお、8月末の市内在住の外国人は、37の国と地域および国籍別では、ブラジル2千432人、ベトナム567人、フィリピン454人、中国320人、インドネシア295人、ペルー190人、アルゼンチン96人、韓国・朝鮮83人、スリランカ35人、ネパール33人、パラグアイ31人、タイ30人、パキスタン20人、ミャンマー16人、米国11人などです。

また、今年8月末の男女別人口は、男性3万7千502人、女性3万5千556人で、男性が2千人ほど多い状況です。ちなみに、2018年1月1日現在の住民基本台帳によると前年より人口の増えている都道府県は、東京都10万7千293人増、愛知県1万9千609人増、埼玉県1万9千204人増、神奈川県1万5千885人増、千葉県1万5千390人増、沖縄県4千465人増、福岡県4千384人増の7か所しかありません。これらのうち自然増（出生人数－死亡人数）で人口が増えているのは沖縄県（4千344人の自然増）のみです。いずれにしても、人口減に苦しむ全国の自治体のなかで、人口が3年以上継続して増加していることは大変ありがたいことです。今後とも、働く場所の確保、戸建て住宅供給を中心とする住宅環境の整備、子育て・教育環境の整備、各種スポーツ・文化施設の整備、各種イベントの充実など、徹底的に頑張ります。

平成29年度

衣浦衛生組合一般会計歳入歳出決算

衣浦衛生組合は、碧南市と高浜市で構成されている一部事務組合です。

組合の事業と決算状況について、その概要をお知らせします。

組合の主な事業

- ・ **し尿の処理（衛生センター）**
各家庭から収集された生し尿、浄化槽汚泥の処理
- ・ **ごみの処理（クリーンセンター衣浦）**
各家庭から収集された、可燃ごみ・粗大ごみの処理および一般廃棄物の処理
- ・ **ごみの再生処理（リサイクルプラザ）**
再利用できると判断された粗大ごみや家庭にある不用品でまだ使える物の展示・販売
- ・ **温水プールと浴場の運営（サン・ビレッジ衣浦）**
クリーンセンターのごみ焼却余熱を利用した温水プール、風呂施設の運営
- ・ **火葬場の運営（衣浦斎園）**

問合せ 衣浦衛生組合 ☎(41)3479

